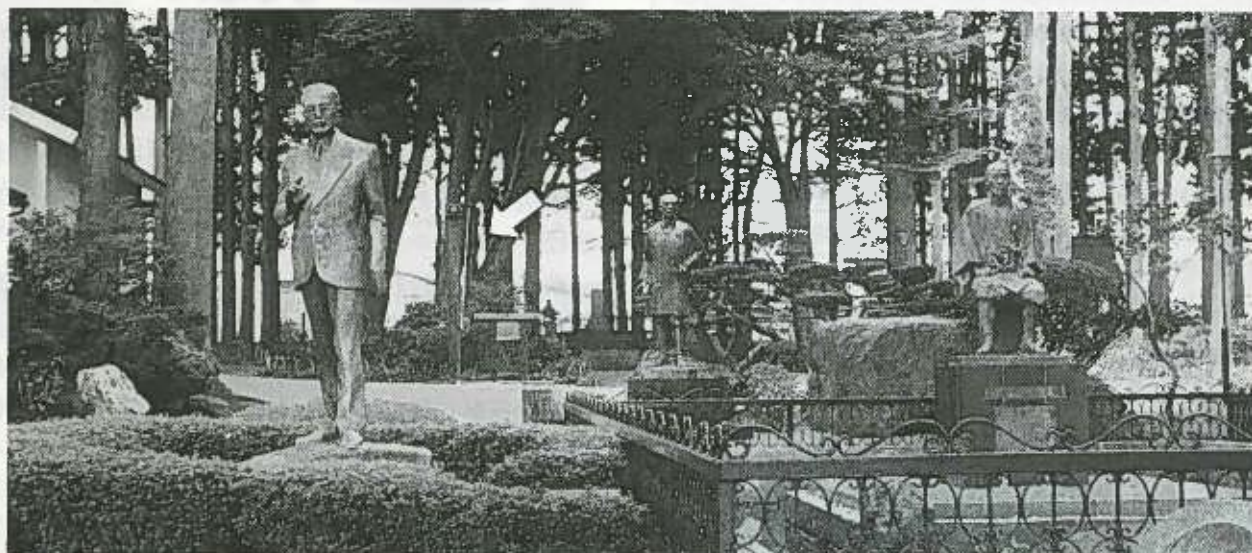


十和田市立 新渡戸記念館だより



◀新渡戸三代の銅像とともに設置された「時の鐘」

新渡戸稲造ゆかりの鐘 太素塚に寄贈される



新渡戸稲造

(『中学世界定期増刊～青年修養百談～9巻12号』より)

7月29日、太素顕彰会評議員である田中建設株式会社田中陽一社長より、三本木農業高等学校が所蔵する新渡戸稲造ゆかりの「時の鐘」レプリカを、太素塚境内当館前に寄贈、設置頂きました。

「時の鐘」は大正の始め頃、新渡戸稲造博士が県立畜産学校(現・三本木農業高等学校)へ時間を知らせる鐘として贈呈したもので、昭和30年代まで授業の開始、終了にこの鐘を鳴らしていました。この度田中社長のご好意により、実物保存のためレプリカを作成して交換することとなりました。田中建設では本社前と当館、三農へ設置する他、十和田市役所、商工会議所にそれぞれ1基ずつ寄贈しました。鐘はアメリカ製(製造元:THE C, S, BELL CO. HILLSBORO, O)で、高さ21.6cm、直径36.7cm、重さ12kg。鋳造にあたっては鐘の成分を分析し、その音色まで忠実に再現しています。また、太素塚への設置には、前号の記念館だよりでご紹介した、境内に保管している稲生橋の石垣の石の一部を土台に活用し、解説板の形は太素塚のシンボル・鳥居型門の形になっています。設置以来、毎日新渡戸稲造をしのんで鐘を鳴らす人が絶えず、十和田市の新名所としてすっかり定着しているようです。



▲三農の「時の鐘」と同じように木柱の上に取り付ける形で設置されました。



◀実際に使われていた「時の鐘」。つけられている紐を校舎の中から引っ張り鐘を鳴らしたといひます。(三本木農業高等学校「礎は遠く～百周年記念誌」より)



あおもり県民カレッジ手帳持参の方は観覧料無料 期間: 10月1日～31日

※十和田市民は常に無料です

新渡戸傳翁 没後132年 命日祭開催 -9月25日-

新渡戸傳翁没後132年命日祭を9月25日10時30分から太素塚境内で執り行いました。今年は何日である9月27日が土曜日にあたるため、25日に繰り上げての開催となりました。太素顕彰会役員等22名が参列し、太素塚を参拝して傳翁の冥福を祈りました。太素顕彰会会長中野渡春雄十和田市長は挨拶で「新渡戸傳翁の開拓精神を学び、不況や冷害などの厳しい社会情勢を乗り切りたい」と述べ、新渡戸館長が子孫を代表して「関係機関と協力してさらに行動する記念館として文化情報発信の源となるよう努力していきたい」と挨拶しました。



挨拶をする中野渡会長と参列のかたがた

新渡戸稲造に学ぶ書 あいついで出版される

本年4月には、かつて台湾国民党首席をつとめ台湾民主化の父といわれる李登輝氏が著した『「武士道」解題～ノーブレス・オブリージュとは～』が小学館より発行となり話題を集めました。7月には『運命を高めて生きる～新渡戸稲造の名著「修養」に学ぶ～』（上智大学名誉教授・渡部昇一著/致知出版社）と、『いま新渡戸稲造「武士道」を読む』（静岡理科大学教授・志村史夫著/三笠書房）が発行されました。『いま新渡戸稲造「武士道」を読む』は平成11年に丸善ライブラリーから出版されたものを、好評につき加筆、再編集の上改題して再出版したものです。皆さんもぜひご一読下さい。



博物館実習生レポート —10日間の実習を終えて—

北里大学獣医畜産学部4年生 高野 朋美

新渡戸記念館での実習は、本当にあっという間でした。実習では一般に学芸員が行なうとされる仕事だけではなく博物館の仕事全てにかかわる事を体験させて頂きました。朝は太素塚の清掃からはじまり、とても気持ちのよい事でした。思えば、高校の頃まではしていましたが、大学に入ってから、毎日そうじをするということはありませんでした。ある有名な社長さんは、社員が気持ち良く働けるように、自ら朝早く出社し、会社の掃除からはじめるという話を聞いた事があります。清掃は仕事の基本であり、思いやりの基本だと思うので、やはりどこへ行っても清掃からはじめるのが良いと感じました。学芸員としての専門的な体験としては、古文書の資料整理等を行ないましたが、内容を把握し、分類していくのは、思っていたより時間のかかる大変な作業でした。教育普及として行なった小学生の見学補助や、課題として取り組んだ樹木マップの作成、展示改善もやりがいがあり、貴重な体験でした。中でも樹木マップづくりはとても苦戦しましたが、できあがって良かったです。また、管理業務として、太素塚にある木々や草花の管理作業も行ないましたが、私は植物が好きなので、とても楽しく作業することができました。新渡戸記念館は、地域、人とのつながりをとても感じられる館でした。学芸員と直接コミュニケーションをとることができるのもこの館の良い所です。なかなか難しいことですが、このような博物館が増えてくれたらいいと思いました。最後になりましたが記念館スタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、実習中来館して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。

★十和田市の宮本・巨木マップ★



高野朋美さんと課題で作成した樹木マップ

稲生川上水145年記念企画展開催

木々は見ていた

—樹木が語る十和田市の歴史—

8月1日～9月30日

8月19日～23日には東奥日報に企画展示紹介の5回連載記事を掲載いただきました。おかげさまで市内の巨木愛好家など多数が来館され、大変好評でした。

市内の古木・巨木51件を紹介

今回の企画展では市や県の指定樹木の外、市内の各地区を代表する古木、巨木をリストアップし、写真とともに木の由来や周辺地域の歴史を紹介しました。樹木の撮影にあたっては、長年地域の古木、巨木を自らの足で探してきた郷土史愛好家・沢口駿三夫さんに案内していただき、これまで紹介されたことの無い巨木、古木も含め代表的な樹木51件を紹介することができました。また、今回は樹齢や大きさだけにこだわらず、貴い木々とともに失われつつある地域の歴史を思い返す試みとして、伐木や倒木、枯死などによってすでに無く、記憶にだけ残る巨樹、古木も「地域の歴史を代表する木」として広く紹介しました。また、「人物にゆかりの木」のコーナーでは新渡戸傳、十次郎、稲造にゆかりの太素塚の木々など比較的若い樹木についても紹介しました。

木にかかわる考古・民俗資料の展示

現在私たちが知る樹木だけでなく、古代の木々とその周りでの人の暮らしを理解してもらうよう、三本木原台地形成の歴史を語る市内小田の「埋もれ木」をはじめ、

縄文時代の遺跡から出土する炭化した栗やクルミ、木葉痕が残る土器などを展示しました。また、昔から今日に到るまで、衣食住そして信仰など、全てにおいて人の暮らしが木無しでは成り立たないことを理解してもらうよう、木製の民俗資料を展示に織り込みました。考古、民俗資料は十和田市郷土館、十和田市称徳館より多数借り受け展示をおこない、特に考古資料の展示については市郷土館、市教育委員会担当者より指導を仰ぎました。

木とのふれあいコーナー

展示意図の一つは「木に親しむこと」でした。そこで、苗木を見て樹種をあてるクイズ“この木何の木？”コーナーや、“大きな木が待っている！”と題して環境庁発行「巨樹・巨木測定マニュアル」のパネルを設置しました。また、“木々からの贈り物”として、展示室内の籠から来館者がクルミやトチを1つずつ自由に持ち帰れるようにし、「恵深い樹木」という存在を体験的に感じてもらうようにしました。贈呈用の木の実には展示に協力いただいた沢口駿三夫さんより無償で提供いただきました。



▲樹木の存在を強くアピールするため、古木の巨大写真を展示室中央に設置しました。

トピックス

太素塚でバードウォッチング —チゴハヤブサの巣立ち—



▲巣立った2羽のうちの1羽を運良く近くで撮影できました。

太素塚には沢山の野鳥が飛来しますが、ここで繁殖を行なう鳥も少なくありません。チゴハヤブサも毎年太素塚に巣を作りますが、今年は異常気象の影響かいつも太素塚東側奥で繁殖するのが、なんと記念館すぐ脇の杉に巣を作っていました。チゴハヤブサのつがいはカラスを徹底的に追い払って卵を守り、8月上旬2羽の雛がかえりました。親鳥が幼鳥に愛情を注いで飛び方など色々教えている様子を直接観察することができ、大変幸運でした。チゴハヤブサは習性として、つがいのオスが狩をしてそれをメスに渡し、メスから雛に与えますが、その様子も見ることができました。幼鳥が巣だつまで、スズメやカワラヒワ、鳩までが狩の対象となっていました。鳥類の頂点に立つ猛禽類の一種が太素塚の杉の梢で成長したことは、まだまだ十和田市周辺の自然が豊かである証明なのかもしれません。巣だつた雛たちの無事を祈っています。

ありがとうございました

田中建設株式会社社長田中陽一様より新渡戸稲造ゆかりの「時の鐘」レプリカを、太素塚境内当館前に寄贈設置頂きました(詳細1面)

関連情報

◆八戸市で新渡戸稲造を記念する「“太平洋の橋”120年記念の集い」開催

9月17日～18日北東北・日本アメリカ協会、財団法人新渡戸基金、新渡戸稲造会、八戸国際交流協会の主催により、ウェルサンピア八戸において「“太平洋の橋”120年記念の集い」が開催されました。これは明治16年(1883)新渡戸稲造が東京大学入試面接で「太平洋の橋になりたい」と述べた時より数えて、今年が120周年にあたることを記念したものです。17日の「太平洋の橋シンポジウム」では拓殖大学副学長・草原克彦氏の基調講演やパネルディスカッションが行なわれ、新時代の太平洋の橋について活発な意見交換が行なわれました。



◆国際文化会館常務理事・加藤幹雄氏をコーディネーターに、5人の若手パネリストが意見を述べました。

◆太素塚清掃奉仕

●7月3日/十和田東ロータリークラブ ●9月7・20日/本瀬戸山老成会 ●9月20日/大学通り老成会 ●9月25日/商工会議所女性会 ●9月26日/三本木小学校3年4組
ありがとうございました

◆東京女子大学で新渡戸稲造没後70年記念シンポジウム開催

10月15日東京女子大学善福寺キャンパス24202教室(安井てつ記念ホール)において新渡戸稲造没後70年記念シンポジウム「国際化社会と教養教育—21世紀に架ける橋—」が開催されます。(詳細は東京女子大学教育研究支援課/TEL03-5382-6470)

◆7月1日～9月30日までの来館小学校

<十和田市>藤坂小学校・西小学校・ちとせ小学校・南小学校<八戸市>是川小学校・鮫小学校・根城小学校・白銀南小学校・根岸小学校・町畑小学校<七戸町>七戸小学校<五戸町>蛭川小学校<六戸町>折茂小学校・大曲小学校<上北町>小川原小学校<階上町>石鉢小学校<倉石村>石沢小学校

◆太素塚で中央商店街お神輿秋祭り出陣式



◆平成8年からはじまり、太素塚からのスタートがすっかり恒例となりました。

◆キリスト友会日本年会で館長講演記録冊子作成

キリスト友会日本年会では、昨年11月11日、キリスト友会日本年会総会において当館館長が行なった記念講演「新渡戸稲造の思想の原点—新渡戸家の歴史と父祖の三本木原開拓—」を記録小冊子にまとめられ、当館へ50部寄贈いただきました。

活動報告

◆太素顕彰会理事・評議員会開催

7月17日平成15年度第一回太素顕彰会理事・評議員会を十和田市民体育センター2階研修室で10時から開催しました。

◆館長講演会

7月29日国営農業水利事業東北協議会平成15年度総会(古牧温泉)において館長が講演(演題:三本木原開拓と新渡戸三代)を行ないました。

◆稲生川上水145年記念企画展「木々は見ていた～樹木が語る十和田市の歴史～」を開催(詳細3面)

◆平成15年度第1期博物館実習生受け入れ(詳細2面)

〈編集後記〉

10年ぶりの大凶作に見まわれ、農家の皆さまにお見舞いを申し上げます。自然の恵みは無常なものと知りました。農業を貴いものとして感謝の念の大切さを語った稲造博士の『農業本論』を読み返す必要を感じております。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp

http://www.towada.or.jp/nitobec/

印刷 有限会社 岩間印刷所